

2023.02.21掲載
媒体紙：物流ニッポン新聞社
（九州特集号）
部 数：約15万8000部（全国）
内 容： GREEN RABBIT
首里城材木輸送

琉球通運（喜納秀智社長、那覇市）では、若手従業員で構成される次世代運営会が中心となり、SDGs（持続可能な開発目標）達成を目指している。

環境保全の「緑」と同社のマスコットキャラクターであり繁栄の意味を込めた「うさぎ」から、活動の名称を「GREEN RABBIT」と名付け、クリーンアップ活動やエコバッグの作製など、スピード感を持って様々な取り組みを進めている。

クリーンアップ活動は社内に参加者を募り、3月9日に一度、物流施設が集積する港町エリアを清掃している。清掃活動が休日に行われた場合、「自宅に子供を残して参加できない」との意見を受け、3月からは家族ぐるみで活動する。

ゴミ拾いや歩道の除草作業を通じ、不法投棄の状況、道路標示の損傷をチェック。危険箇所や補修、駐車場整備の必要性を県に報告し、安全で住みやすいまちづくりを寄与していく。

SDGs 達成へ清掃活動

琉球通運

エコバッグで環境保護

また、2022年10、11月に実施された首里城復興イベント「いざ首里城〜令和の木曳式」で、正殿の復旧工事に使用する大木「御材木」の輸送を担当。琉球王朝時代の神事の衣装を身に着けた社員が役人を演じ、祝賀パレードを盛り上げた。

創立56周年を記念して作製したオリジナルエコバッグは、社員や取引先、イベント参加者から好評だ。同社がスポンサーのラジオ番組のリスナーにも配布し、環境保護を呼び掛けている。

一方、国際貢献活動にも着手した。23年1月から、古着を回収して送ることで途上国にワクチンを届けられる「古着deワクチン」に協賛。「断捨離しながら社会貢献ができる」と社員も積極的に協力している。4月には、ユニホームのリニューアルに伴い、現在、社員が着用している制服を全て寄贈する。（高松美希）



首里城復興イベントで祝賀パレードを盛り上げ